

平成25年度学習状況調査 結果の概要

平成26年2月
義務教育課

平成25年度学習状況調査 結果概況と考察

【教科の学習状況に関する調査について】

- 小学校では、ほとんどの教科が「おおむね満足」な状況である。平均通過率が低かった小学校第5学年国語においては、「読むこと」の領域における問題の通過率の低さが影響を及ぼした。

小学校第5学年国語においては、目的に応じて文章を比べて読み、自分の考えを表現するなど、言語活動を適切に取り入れた学習指導を一層充実させることが必要である。

- 中学校では、第1学年の全ての教科及び第2学年の社会、英語が「おおむね満足」な状況であり、特に第1学年の平均通過率は昨年度よりも上昇した。県平均通過率が低い学年・教科においては、習得した知識・技能を活用して解決する問題を積極的に取り入れて出題した結果、特に思考力、表現力の育成を目指した内容についての通過率が低いことが影響している。

第1学年に比べ第2学年の平均通過率が低かったことを受けて、学習内容の系統性を踏まえた指導を一層工夫することが必要である。

数学と理科に関しては、改善の兆しが見えるものの、依然として課題が見られる。今後も引き続き、思考力・表現力等を育成するための授業改善を充実させることが必要である。

【学習の意欲等に関する質問紙調査について】

- 学習に対する意欲は、昨年度と同様に肯定的な回答の割合が高く、中学校における改善傾向も継続している。
- 授業については、「発表する機会がよくある」「話し合う活動をよく行っている」「授業のはじめに目標等を立てて取り組んでいる」「授業の最後に振り返る活動をよく行っている」と回答した割合が、小・中学校いずれも高い。

本県の授業においては、学習課題を主体的に解決できるような展開がなされているということ、児童生徒も自覚して取り組んでいる。

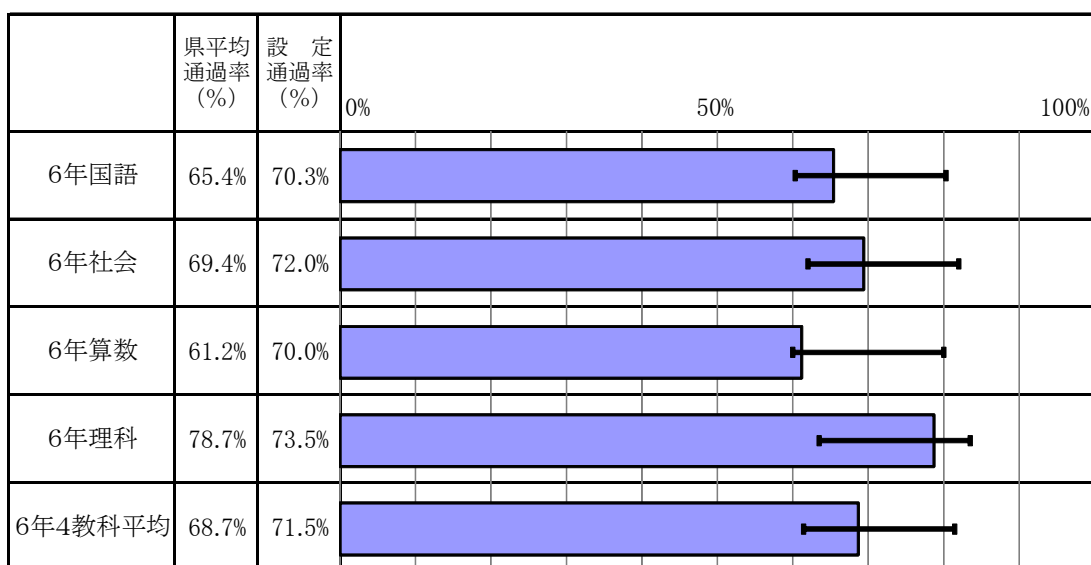
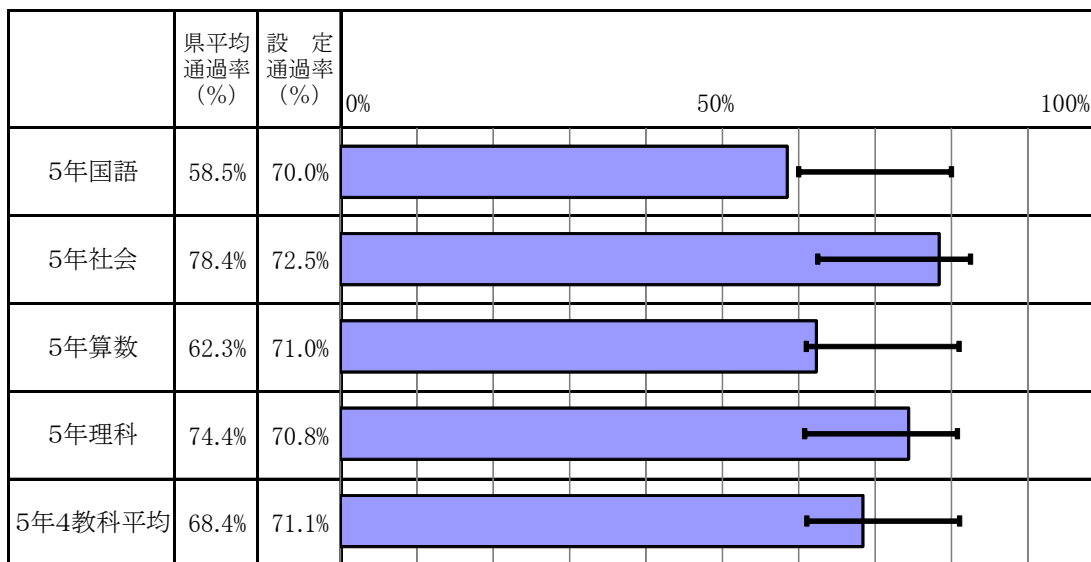
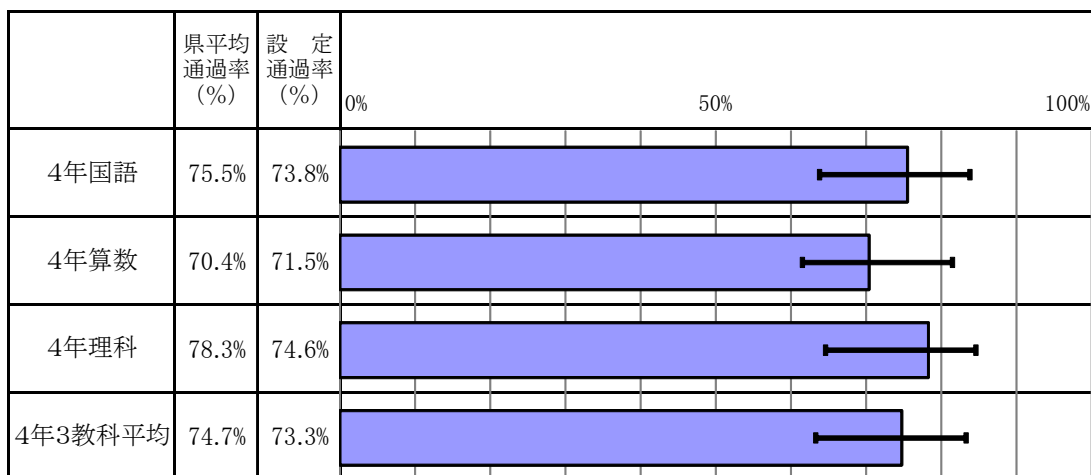
- 生活全般については、昨年度と同様に肯定的な回答の割合が高い。
- 家庭学習の時間については、全ての学年で「全くしない、または30分未満」の割合が低い。
- 読書については、全ての学年で児童生徒の80%以上が「読書が好きである」と肯定的に回答している。また、児童生徒の90%以上が月に1冊以上の本を読んでいる。しかし、図書館の利用回数は、中学生になると大きく減少している。

本県の児童生徒には、望ましい生活習慣や学習習慣が身に付いている様子がうかがえる。特に、家庭学習の習慣はほとんどの児童生徒に定着している。また、全ての学年で月に1冊以上の本が読まれていることは、小・中学校で取り組んでいる朝読書等の取組が要因の一つであると考えられる。教科等の学習においても、児童生徒が積極的に学校図書館等を利用できるように、場を工夫して設定することが必要である。

1 ペーパーテストの結果

(1) 小学校の平均通過率 (グラフの \blacksquare は設定通過率の $\pm 10\%$)

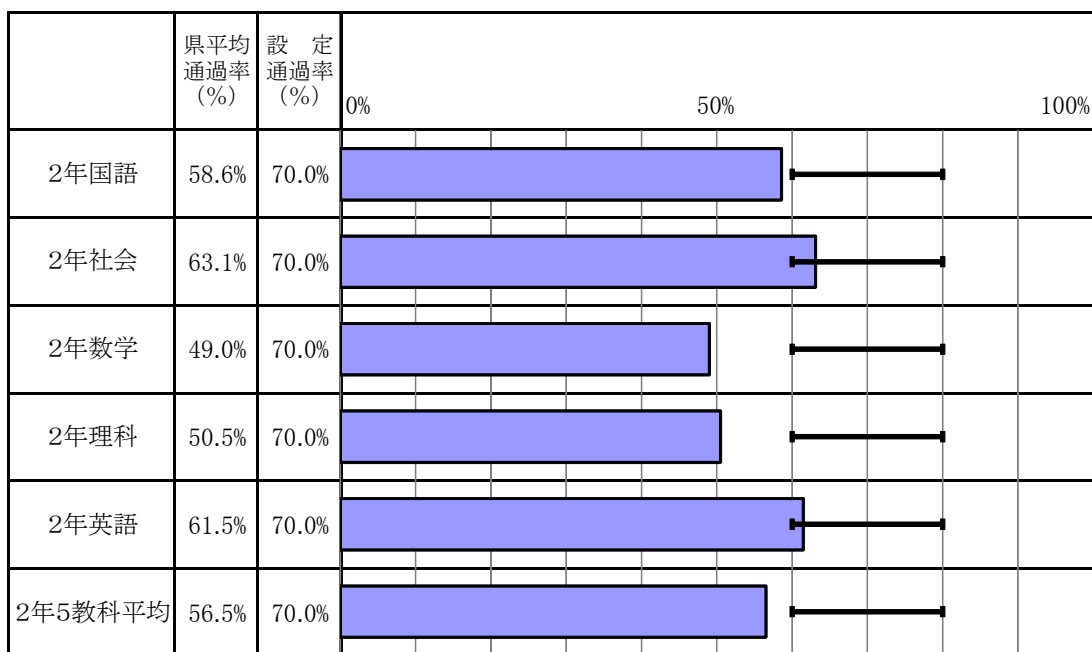
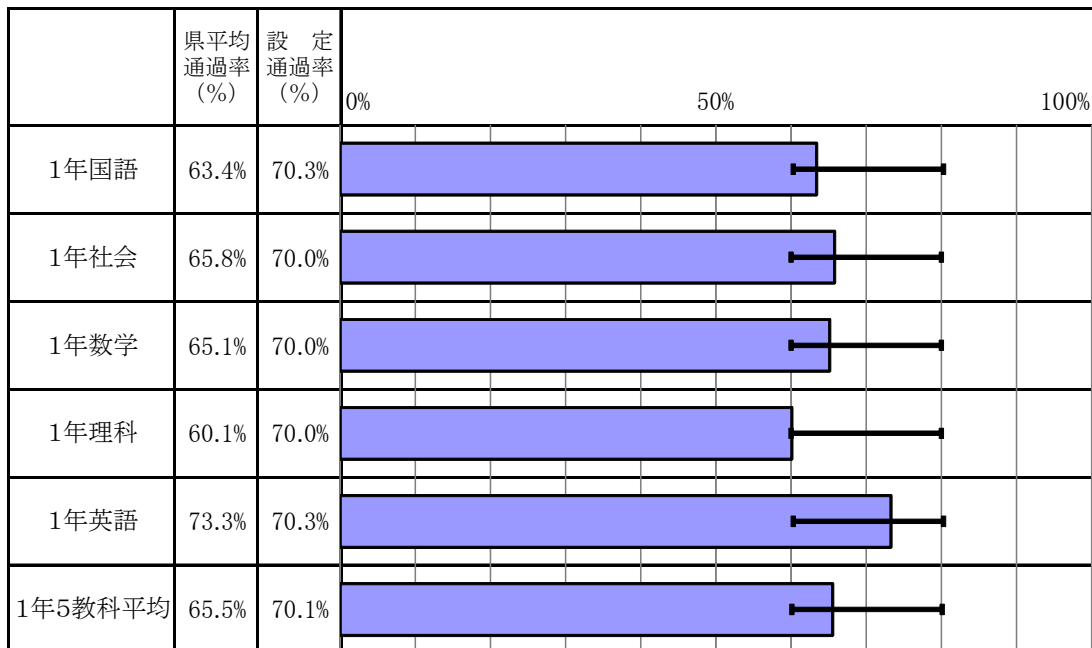
設定通過率の $+10\%$ を超えるか同程度(設定通過率 $\pm 10\%$ の範囲内)を「おおむね満足」な状況とする。



小学校第5学年の国語を除いた学年・教科において、「設定通過率 -10% 」のラインを上回っており、おおむね満足な状況にある。小学校第5学年の国語では、目的に応じて文や文章を比べて読むなど、特に「読むこと」の領域における問題の通過率が低く、県平均通過率に影響を及ぼしている。

(2) 中学校の平均通過率（グラフの「————」は設定通過率の±10%）

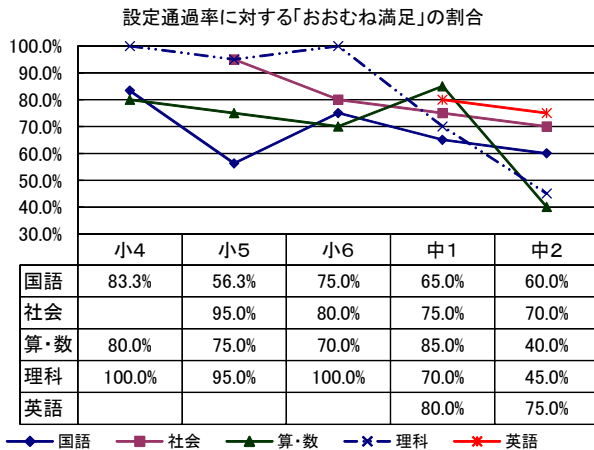
設定通過率の+10%を超えるか同程度（設定通過率±10%の範囲内）を「おおむね満足」な状況とする。



「設定通過率-10%」のラインを上回った学年・教科が7つあり、昨年度よりも増えている。特に、第1学年では、全ての教科が「設定通過率-10%」のラインを上回った。県平均通過率が低い学年・教科においては、習得した知識・技能を活用して解決する問題を積極的に取り入れて出題した結果、特に思考力、表現力の育成を目指した内容についての通過率が低いことが影響している。

(3) 設定通過率との比較

設定通過率の+10%を超えるか同程度（設定通過率±10%の範囲内）を「おおむね満足」な状況とする。



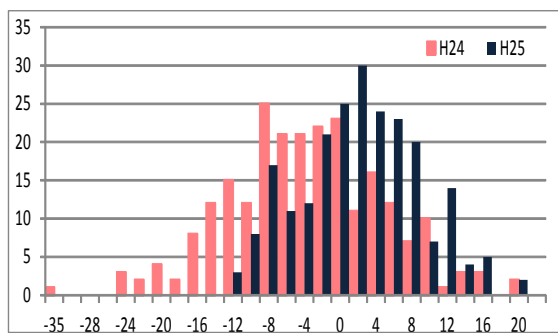
「おおむね満足」な状況の設問数の総計及び割合は、400問中298問74.5%で、昨年度の72.8%を上回った。校種別では、小学校が82.5%（200問中165問）、中学校は66.5%（200問中133問）であり、昨年度に比べ、中学校で改善が図られている。

また、学年・教科ごとに見ると、「おおむね満足」な状況の設問数の割合が、小学校ではほぼ全ての教科で70%を超えている。しかし、中学校第2学年の数学と理科では、出題した問題の6割程度が設定通過率より10ポイント以上下回っており、課題が見られる。

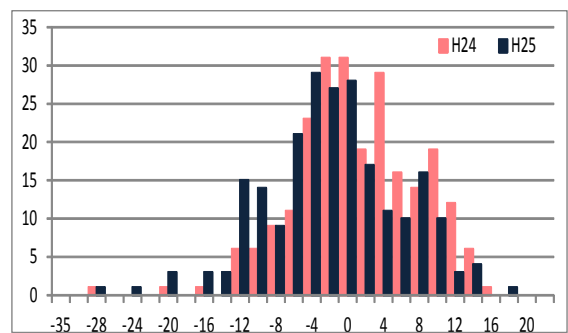
(4) 学力の定着度別学校数

設定通過率の平均との差をみた学校数度数分布（2か年比較）

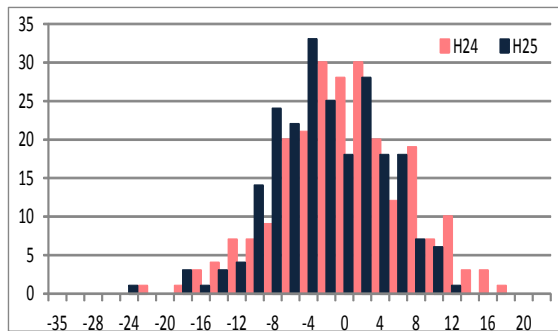
① 小学校4年



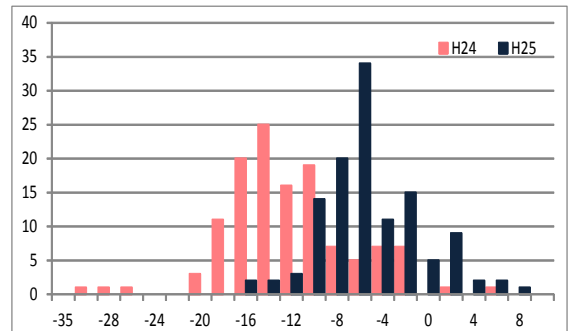
② 小学校5年



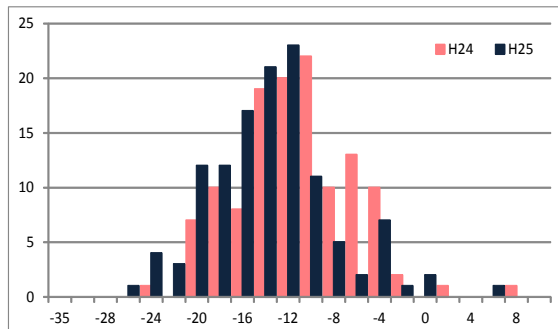
③ 小学校6年



④ 中学校1年



⑤ 中学校2年



設定通過率を上回った学校数は、昨年度と比べて、小学校第4学年と中学校第1学年で大きく増加した。

一方、中学校第2学年では、設定通過率よりもマイナスの値が大きい学校が増加している。

2 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

(1) 学習全般について

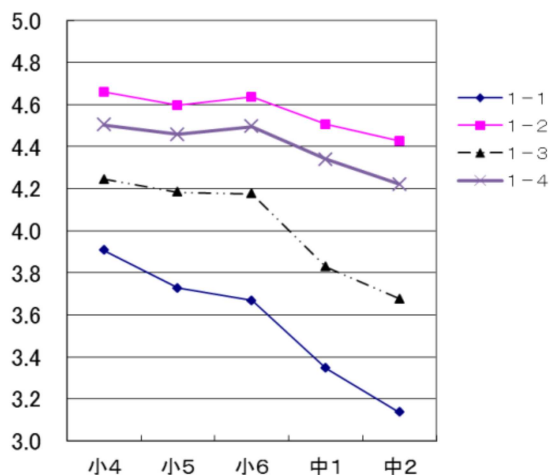
質問項目

- 1-1 勉強が好きだ
- 1-2 勉強は大切だ
- 1-3 学校の勉強がよく分かる
- 1-4 ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい

・右のグラフは、調査項目の回答類型について、次のように点数に換算して作成。

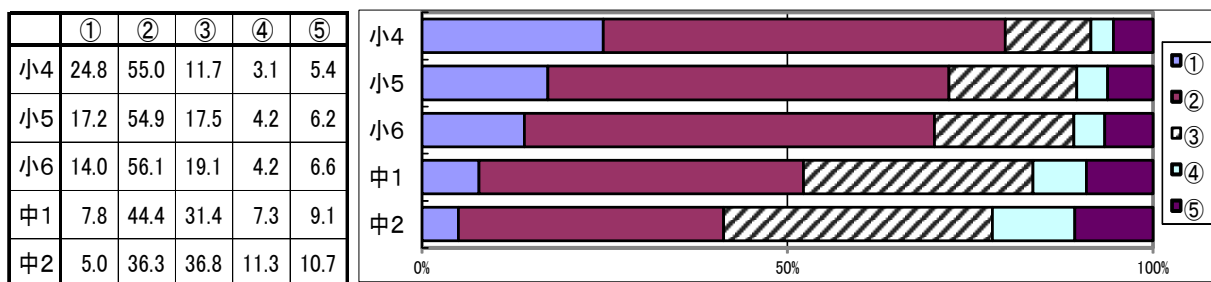
- 「つよくそう思う」…5点
- 「そう思う」…4点
- 「そう思わない」…2点
- 「まったくそう思わない」…1点
- 「分からない・どちらでもない」…3点

5点換算による県の平均

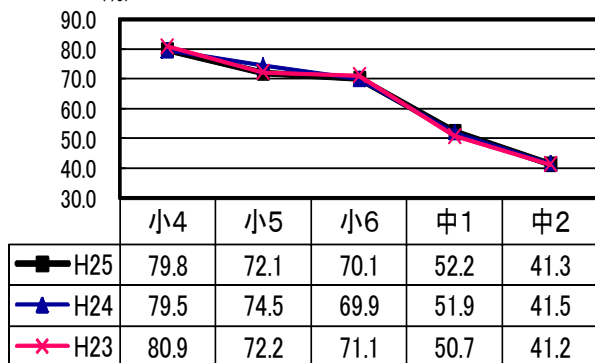


[1-1 勉強が好きだ]

①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない・どちらでもない



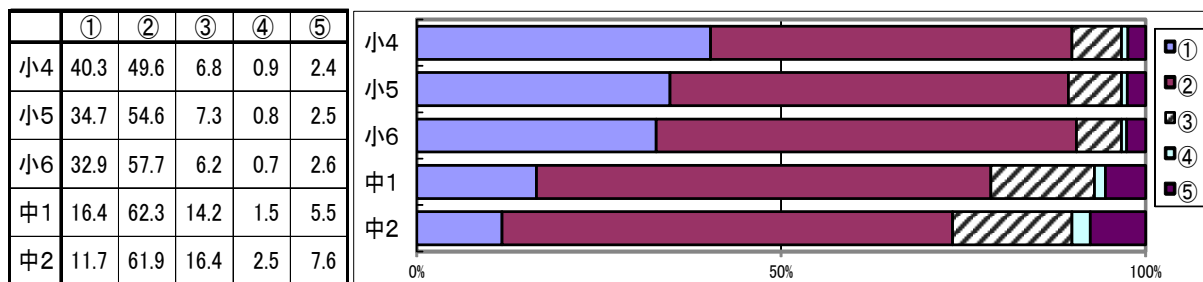
「つよくそう思う」「そう思う」の割合の3年間の推移 (%)



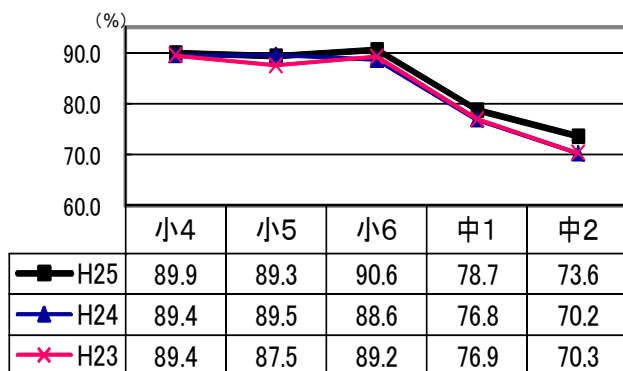
「つよくそう思う」「そう思う」のように肯定的に回答した割合は、昨年度とほぼ同じ値であった。また、その割合は学年進行と共に減少していく状況は依然として見られるが、中学校第1学年では、平成23年度からの3年間を通して少しずつ高くなり、良い傾向を示している。

[1 - 3 学校の勉強がよくわかる]

①つよく思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない・どちらでもない



「つよく思う」「そう思う」の割合の3年間の推移



小学校では、ほぼ90%の児童が肯定的な回答をしており、そのうち30%以上が「つよく思う」と回答し、良い傾向を示している。

中学校においても70%以上の生徒が肯定的な回答をしており、その割合も昨年度に比べて微増している。

(2) 授業について

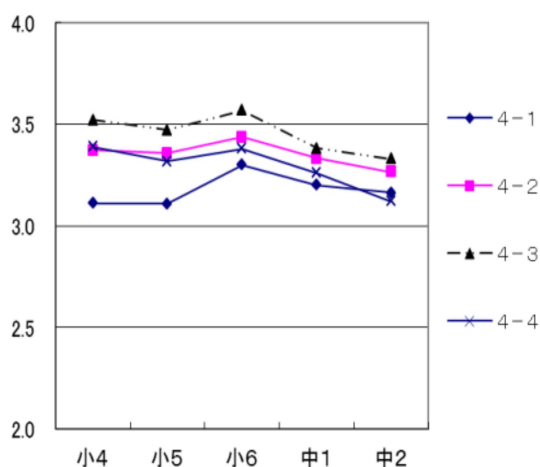
質問項目

- 4-1 自分の考えを発表する機会がよくあると思う
- 4-2 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う
- 4-3 はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う
- 4-4 最後に振り返る活動をよく行っていると思う

・右のグラフは、調査項目の回答類型について、次のように点数に換算して作成。

- 「当てはまる」…4点
- 「どちらかといえば当てはまる」…3点
- 「どちらかといえば当てはまらない」…2点
- 「当てはまらない」…1点

4点換算による県の平均

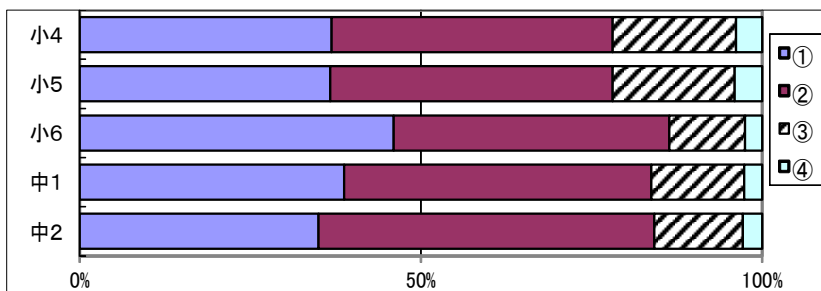


[4 - 1 ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会がよくあると思う]

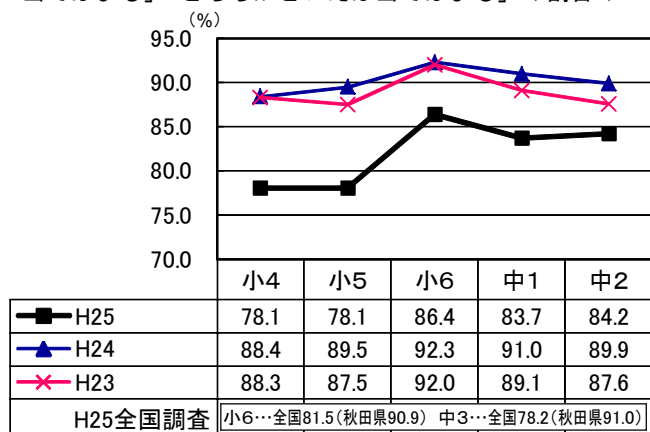
※昨年度までの質問項目は、「ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

	①	②	③	④
小4	36.9	41.2	18.1	3.8
小5	36.7	41.4	17.9	4.0
小6	46.0	40.4	11.1	2.5
中1	38.7	45.0	13.6	2.6
中2	35.0	49.2	13.0	2.8



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の3年間の推移



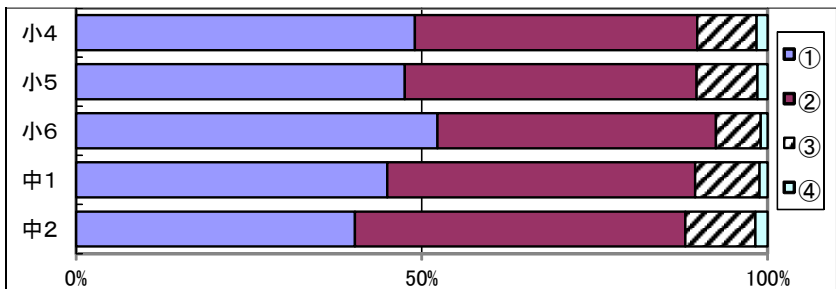
全ての学年において、ほぼ8割の児童生徒が肯定的な回答をしている。また、中学校の肯定的な回答の割合の平均が、小学校に比べて高くなっている。小・中学校のいずれにおいても、児童生徒の発言を生かした授業が展開されていることがうかがえる。

しかし、質問の仕方について、昨年度の本調査及び今年度の全国調査の「機会が与えられている」から、本調査では「機会がよくある」と変えたところ、数値が下がった。自分の考えを主体的に表現する態度を一層養うことが必要である。

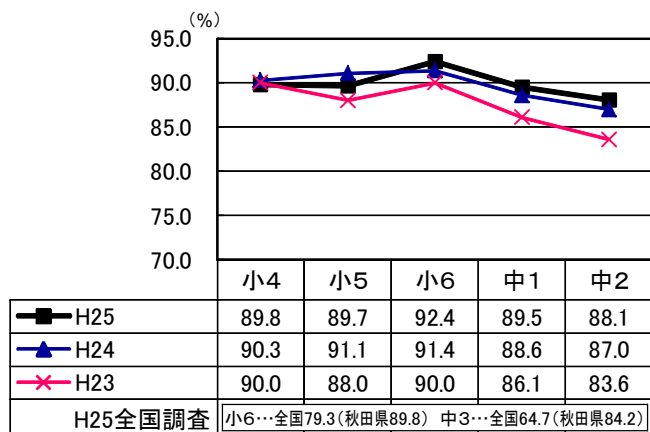
[4 - 2 ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う]

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

	①	②	③	④
小4	49.0	40.8	8.6	1.6
小5	47.5	42.2	8.8	1.5
小6	52.2	40.2	6.5	1.0
中1	45.0	44.5	9.3	1.2
中2	40.3	47.8	10.1	1.8



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の3年間の推移



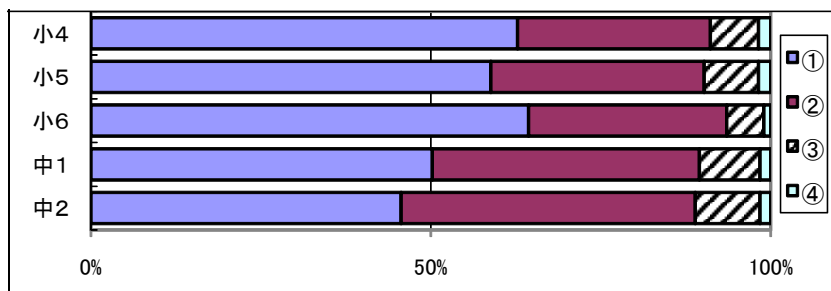
肯定的な回答の割合が、全ての学年で90%程度と高い数値を示しており、中学校では平成23年度からの3年間で微増している。教科の別にかかわらず、授業においては、日常的に話し合う活動が取り入れられていることがうかがえる。

[4 - 3 はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う]

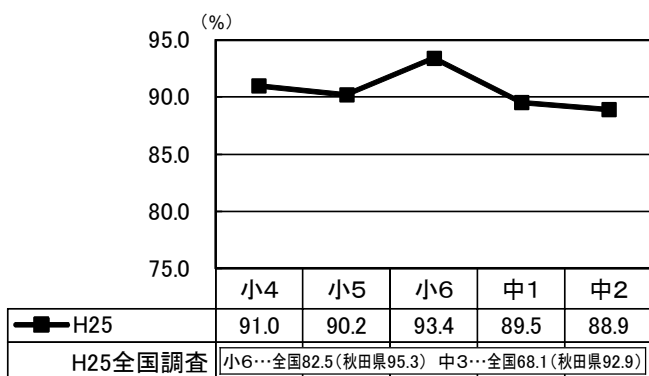
※今年度、新しく取り入れた質問項目

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

	①	②	③	④
小4	62.7	28.3	7.1	1.8
小5	58.8	31.4	8.0	1.8
小6	64.3	29.1	5.5	1.0
中1	50.2	39.3	8.9	1.6
中2	45.6	43.3	9.5	1.6



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



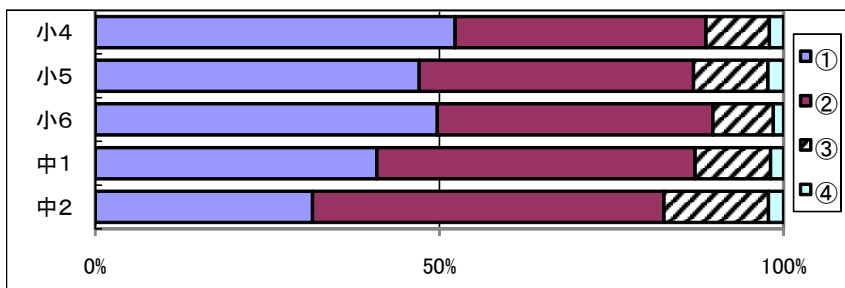
肯定的な回答の割合が、全ての学年ではほぼ90%と高い数値となった。学年間の意識に大きな差がないことから、小・中学校のいずれにおいても、授業の導入では本時の目標等が児童生徒と共につくられ、学習が展開していることがうかがえる。

[4 - 4 ふだんの授業では、最後に振り返る活動をよく行っていると思う]

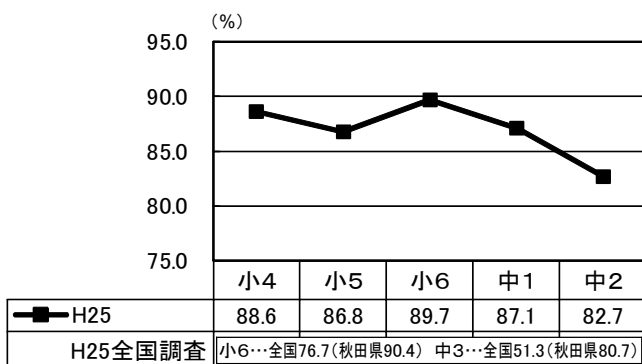
※今年度、新しく取り入れた質問項目

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

	①	②	③	④
小4	52.2	36.4	9.2	2.1
小5	47.0	39.8	10.8	2.3
小6	49.7	40.0	8.8	1.5
中1	40.9	46.2	11.0	1.9
中2	31.6	51.1	15.2	2.2

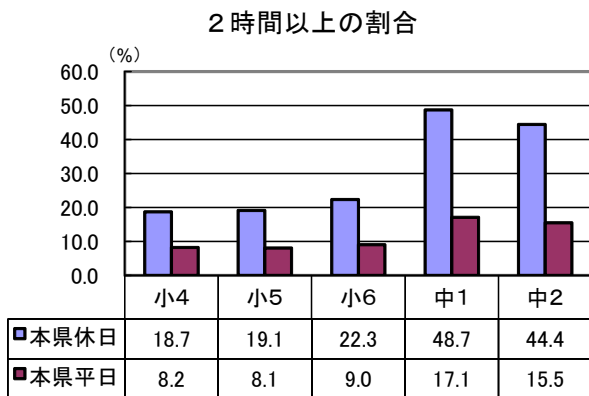
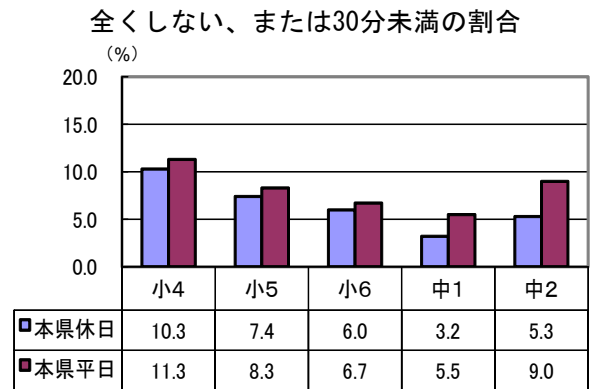
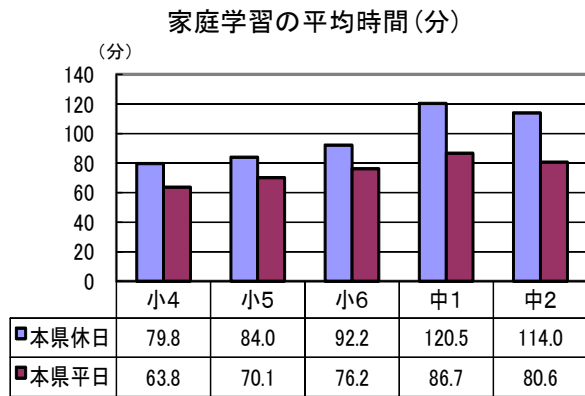


「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



全ての学年で、80%以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。授業の終わりには、児童生徒が自分の学びを振り返り、分かったことや次に考えてみたいことなどを明らかにしている様子が見える。

(3) 家庭学習時間について



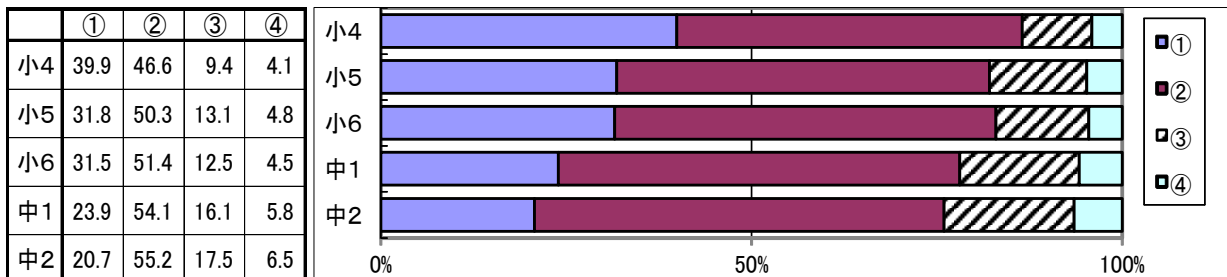
平日には1時間から1時間20分程度の家庭学習をしている児童生徒が多い。また、家庭学習を全くしない、または家庭学習時間が30分未満の児童生徒の割合が全ての学年で低い数値であることから、家庭学習の習慣がよく身に付いていることがうかがえる。

休日に2時間以上の学習をしている児童生徒の割合は、全ての学年において平日に比べて高く、中学生になるとその傾向が顕著に見られる。

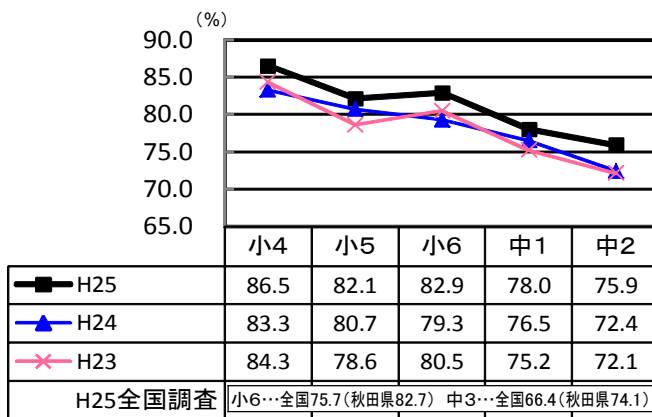
(4) 生活全般について

[自分にはよいところがあると思う]

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の3年間の推移

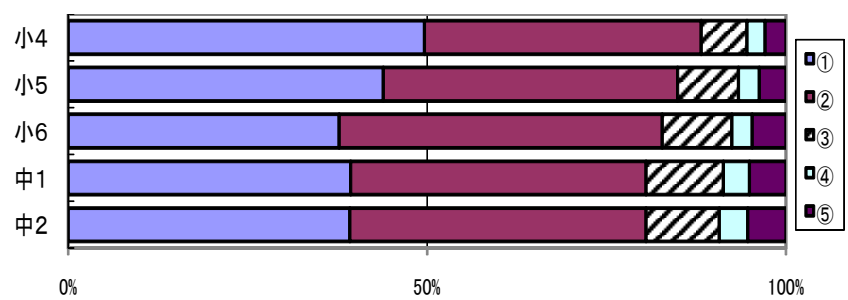


小学校では80%以上、中学校では75%以上が、肯定的な回答をしている。平成23年度からの3年間で、全ての学年において僅かずつではあるが数値が高くなってきている。学校生活等の様々な場面で、自己存在感や自己有用感を感じている様子が見えてくる。

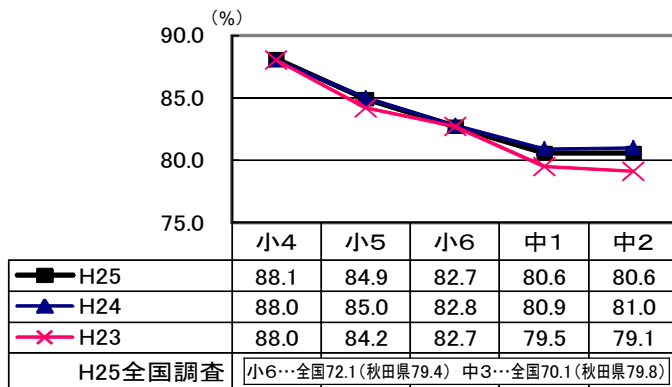
(5) 読書について
[読書は好きだ]

①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない・どちらでもない

	①	②	③	④	⑤
小4	49.6	38.5	6.4	2.5	2.9
小5	43.9	41.0	8.5	2.9	3.7
小6	37.7	45.0	9.7	2.8	4.7
中1	39.4	41.2	10.8	3.6	5.1
中2	39.3	41.3	10.2	4.0	5.3



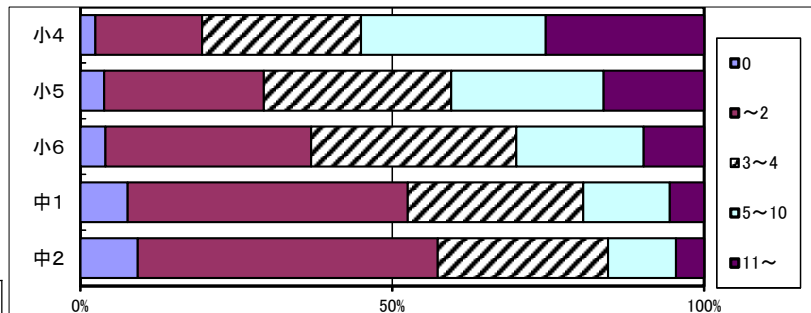
「つよくそう思う」「そう思う」の割合の3年間の推移



[1か月に何冊くらい本を読むか(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録を除く)]

冊/月	0	~2	~4	~10	11~
小4	2.4	17.1	25.5	29.6	25.4
小5	3.8	25.6	30.0	24.4	16.1
小6	4.0	33.0	32.9	20.4	9.7
中1	7.6	44.9	28.1	13.9	5.5
中2	9.2	48.1	27.3	10.9	4.5

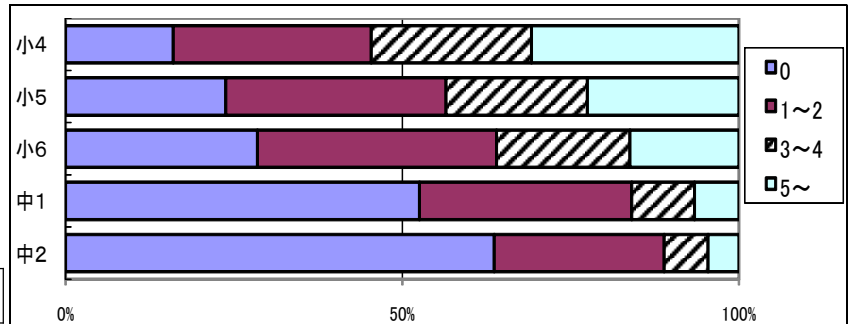
H25全国調査 3冊以上 小6…全国55.1(秋田県59.5)
中3…全国27.4(秋田県35.9)



[1か月に何回くらい図書館を利用するか]

回/月	0	~2	~4	5~
小4	16.0	29.4	23.8	30.8
小5	23.8	32.7	21.0	22.5
小6	28.5	35.5	19.8	16.2
中1	52.5	31.5	9.3	6.6
中2	63.6	25.2	6.5	4.6

H25全国調査 小6…全国44.9(秋田県43.7)
月1回以上 中3…全国20.5(秋田県18.3)



全ての学年において、児童生徒の80%以上が読書が好きだという意識をもっている。また、児童生徒の90%以上が1か月に1冊以上の本を読んでおり、特に小学校では1か月に5冊以上の本を読んでいる児童が30%以上いることから、日常的に読書に親しんでいる様子がうかがえる。図書館の利用回数については、小学校では7割以上の児童が月に1回以上利用しているが、中学生になると大きく減少している。

3 調査結果の活用と課題への対応

(1) 調査結果および報告書の送付

12月の調査実施後、学習状況調査集計・分析システムを活用することにより、全県の集計データを1月上旬に学力向上支援Webに掲載した。各学校、各市町村教育委員会ではそのデータを閲覧し、自校と県平均との比較グラフなどをダウンロードするなどして活用している。また、より見やすい個人票が作成できるよう、個人票印刷用ソフトを配信した。今後は、各教科等の考察を加えた報告書を2月下旬に配信する。

(2) 教科に関する課題

学年・教科によっては「おおむね満足」な状況に至らなかったことについて、学習指導要領の趣旨等に基づき言語活動を取り入れた授業を展開しているものの、その活動が思考力・判断力・表現力の育成に的確に結び付いていない状況が考えられる。授業についての質問紙調査の結果においては、児童生徒が活動の主体となるよう各学校では授業改善を進めている様子が見え、一層適切な手立てを講じることが求められる。

(3) 平成25年度における改善の手立て

・学校訪問等による指導

通常の学校訪問のほかに、全国学力・学習状況調査の結果分析による各校の課題に対する取組と学習状況調査による検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じた学校訪問や市町村教育委員会からの要請に応じた研修会への講師派遣を行った。学力向上推進班が12月～2月に、国語及び算数・数学について6回実施している（実施予定の1回を含む）。

・県の課題の提示

県教育委員会は、各学校が指導の改善に役立てることができるよう、本調査の結果等から明らかになった課題を、平成25年1月に各学年・教科ごとに1、2問提示した。

・来年度以降の授業改善に向けた取組の報告

各市町村教育委員会および各学校は、本調査の結果を基に成果と課題を明らかにし、来年度の授業改善に向けた取組をまとめ、3月に県教育委員会に提出する。

(4) 平成26年度の取組

○学校訪問等による指導

全国学力・学習状況調査及び本調査の結果分析による各校の課題への取組と検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じて義務教育課及び各教育事務所・出張所、総合教育センターの指導主事等が、授業改善のための学校訪問等による指導を実施する。

○事業による取組

①学力向上支援事業

・学力向上支援Web活用

単元評価問題をWebサイトで配信し、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、各学校の授業改善を支援する。

・教科指導CT養成研修会（新規）

地域の教科教育において中核的な役割を担う教員（CT：コア・ティーチャー）による提示授業を基に授業研修会を行い、教科指導力の向上を目指す。

・理数探究体験セミナー

理数系の進路に夢や希望を抱く人材の育成を目指し、児童生徒に算数・数学及び理科の探究的な体験活動をさせるセミナーを実施する。

・科学の甲子園ジュニア秋田県大会

中学生を対象に科学好きの裾野を広げ、理数における思考力・表現力等の育成を目指す。

②あきたの教育力発信事業

・検証改善委員会を設置して全国学力・学習状況調査の結果等を分析し、学校改善支援プランを作成して教育指導に係る提言を行う。

・小・中学校の授業を公開し、県内外の教育関係者によるパネルディスカッションを行うなどする学力向上フォーラムを開催し、一層の学力向上を図る。

③あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業

・県内の大学等と連携を強化し、世界に通じる英語力を育成するため、英語教員の指導力向上を図るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力を育成する。